湘南フォーラム

安心して過ごすことができる持続可能な本市のまちづくり

久保田　聡　議員

問　令和7年度の予算編成について、市税をベースとした自主財源の確保と拡充を図りながら、歳入基盤を確立し、持続可能な財政運営を進めていく必要がある。人口減少などの影響も懸念され、健全で安定した財政基盤の確立は重要と考えるが、7年度の取り組みについて見解を伺う。

市長　本市の強みを生かした経済活性化策や雇用の確保、人への投資、安心・安全で魅力あるまちづくりなど、将来の税源涵養につながる投資的な取り組みを推進し、さらにクラウドファンディングの活用やネーミングライツの導入、デジタル化による業務の効率化、民間活力の活用など、あらゆる手段を講じた財源確保策に取り組んでいく。

問　令和6年台風第10号による本市への水害被害は甚大なものとなった。今後さらに気候変動リスクは増大していくと予想されるが、今回被害に遭った人への対応を伺う。

市長　本市初となる災害に伴う臨時市民相談窓口と災害ボランティアセンターを開設し、被害に遭った人への支援に努めた。

問　自然災害対策に関する計画の見直しや更なる対策の強化が必要と考えるが、見解を伺う。

市長　本市では「平塚市地域防災計画」の中で、公共施設などの安全対策や防災機能の強化、災害時の情報収集や提供、防災知識の普及などを位置付けている。今後も災害時の情報収集や分析、対策が円滑になるようデジタル技術の活用も進め、地域防災計画の実効性を高めていく。

問　不登校児童生徒には多様な学びの場の確保や、将来の社会的な自立を目指して安心して過ごすことができる環境整備が必要である。多様な学びの場の確保は、公の機関として文部科学省指定の不登校の生徒に配慮した特別の教育課程を実施することができる、学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）や分教室の設置促進を本格的に進めるべきと考えるが見解を伺う。

学校教育部長　不登校特例校については、不登校児童生徒にとって有効な取り組みであると認識している一方で検討すべき課題もある。現在、不登校児童生徒に対して行っているさまざまな取り組みを着実に進め、適切な支援が行き届くよう努め、不登校特例校についても引き続き研究していきたいと考えている。

問　男性の育児休業取得促進の波は全国的にも波及している状況であり、育児休業取得促進と家事・育児の参画促進は、今後より重要である。更なる取得促進に向けた取り組みを伺う。

健康・こども部長　子どもを産み育てやすい環境づくりを進めるためには、男性の家事や育児に関わる時間を増やすことが有効であり、本市ではさまざまな支援策をパッケージ化し、男性の育児休業取得促進に努めている。企業向けにはセミナーや専門家派遣などにより、国の制度の周知や活用を促し、働きやすい雇用環境整備に取り組む企業へ奨励金の支給などをしている。若者・子育て世代向けには、母親父親教室の受講を交付条件とした、産後パパ育休取得応援交付金などの事業も進めている。

▼このほかの質問　小学校の修学旅行　産後ケア事業の充実

26万都市唯一の鉄道駅を活かしたまちづくりを

山原　栄一　議員

問　鉄道駅が1つしかない本市の現状と課題を伺う。

副市長　平塚駅から放射状に延びた道路交通網の整備で都市が形成され、多くの市民が駅を利用している。一方、通勤や通学時に集中する交通の円滑化や安全で快適な自転車と歩行者空間の形成などが必要である。

変わるチャンス　平塚駅をどう生かす

問　「平塚駅周辺地区将来構想（素案）」において、平塚駅をどう生かすのか考えを伺う。

副市長　交通機能に加え、本市の玄関口としてまちの魅力や特徴が感じられる場の創出を目指している。

問　駅の北口から南口へ車を通過させるようなダイナミックな案を構想に盛り込まなかった理由を伺う。

都市整備部長　構想は駅周辺地区のまちづくりのにぎわいをつくるものであり、新しい道や鉄道駅は盛り込まなかった。

問　駅周辺の市有地や中心市街地関連施設を積極的に生かす考えについて伺う。

副市長　駅周辺地区の魅力向上が期待されるため、重要なプロジェクトと位置付けており、積極的に取り組んでいく。

問　駅周辺への自動車や自転車の利用拡大に向けたインフラ整備の考えを伺う。

副市長　市街地更新を踏まえた適切な駐車場・駐輪場の再整備を検討していく。

問　駅周辺を雨に濡れない歩行エリアにするバリアフリーの考えを伺う。

副市長　天候に左右されない歩行環境に配慮した内容を検討していく。

▼このほかの質問　行財政改革計画・中央公民館のあり方　放課後児童クラブ、子どもの家の今後のあり方

市民ニーズに対応した施策を

府川　正明　議員

一風水害への対応

問　令和6年台風第10号による河内川の溢水により床上・床下浸水や土砂崩れ、車の水没などが発生した。市民が安心して暮らせる状況づくりへの見解を伺う。

防災・危機管理監　市民が安心して暮らすためには、住んでいる地域の災害リスクを日頃から把握することが基本であり、重要と考えている。本市では毎年、神奈川県市長会や3市3町広域行政推進協議会などさまざまな機会を捉えて、県に対し河内川を含む金目川水系の整備を要望してきた。県は河川断面を広げる計画をしており、下河原橋から神明橋までの右岸約１９０メートルは、6年3月に完了した。左岸についても同様に進めていく。

砂浜保全

問　砂浜の保全や再生に向けた取り組みがされているが、砂浜保全や養浜に対しての見解を伺う。

都市整備部長　相模川からの供給土砂の減少と、新港による影響で浸食傾向であったが、最近は浸食対策の効果により安定傾向である。市としては、海岸利用者のさらなる安全確保や海岸エリアの魅力向上のため、浸食された砂浜の回復について、なぎさづくり促進協議会などを通じて、国や県へ要望していく。

漁業の活性化

問　本市として漁業に関わる人たちに、今後どのようなフォローをしていくのか。また、受け皿となる魚市場の在り方も重要だと思うが見解を伺う。

産業振興部長　漁業者の安全な操業に向け、漁業施設の機能保全工事を継続して実施し、施設の適切な維持管理に努めるとともに、平塚市漁業協同組合が行う漁獲物の高付加価値化や漁業環境を向上させる取り組みなどを支援している。魚市場の在り方については、漁業関係者や水産物卸売事業所などで組織された協議会から、卸売市場を含む周辺施設の再整備に関する提案があり、今後庁内で検討を進めていく。

▼このほかの質問　戦没者遺族等援護事業　ヤングケアラー

請願・陳情を市議会へ

皆さんの意見や要望を議会に伝え、市政に反映させる方法として請願と陳情があります。

請願は、紹介議員を必要とし、提出後は所管の常任委員会などへ付託して審査します。その後、委員会審査の結果を本会議へ報告し、議会としての採択、不採択などを決定します。

陳情は、請願と同じような性格のものですが、紹介議員を必要とせず、提出後は議会運営委員会でその取扱いについて協議します。

提出方法などについては、市議会ホームページをご覧ください。

会議録は２月中旬に公開

12月定例会の会議録は２月中旬から市議会ホームページなどで公開します。

「マチイロ」

アプリ「マチイロ」にひらつか議会だよりを掲載しています。

湘南フォーラム所属議員

出村 光 議員

小泉 春雄 議員